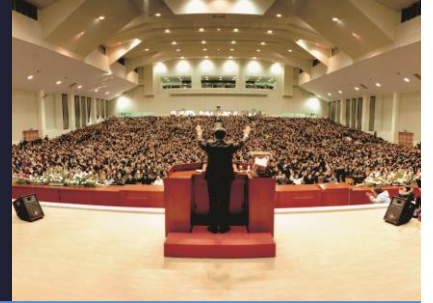


恵みと真理のニュース



2017 年 11 月の四次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

主は私の力です。私の盾であり真の希望です

私はイエス様を信じない家庭で生まれ育ちました。旦那も儒教思想が深く根を下ろしたリュウ氏の家庭の息子で集成村で生まれ育ちました。私たちが結婚してアンサンで住むとき区域長が伝道しました。区域長が伝えてくれた恵みと真理ニュースを読みながらキリスト教の信仰に関心が出来て、当時アンサン聖殿が建てられる前だったので子供達を連れてアンヤン聖殿の水曜礼拝に参席して決信しました。私の娘が幼い頃、先天性障害判定を受けました。その時、私はその事実を受け入れるのが難しかったです。死ぬほど苦痛で娘をつれて誰も住んでない無人島に入って生きたかったです。それでむやみに慣れてないシハで引っ越しました。一番目息子の手をつないで10が月になった二番目の娘を背をおいて信仰生活をはじめて2年になる時でした。当会長の牧師に説教の御言葉の中で感謝する理由を一つ一つ書いてみなさいとしました。目があってることが出来て、家族が休む温かい家があること、子供を下さったこといつも食べる糧食もくださること数えてみると本当に感謝する理由が多かったです。過ぎった過去に落胆して恨んで不平をしたのを悔い改めました。礼拝を終えて家に帰ってくる道にアパートの塀につるバラがきれいに咲いているのを見ながら以前にはなかった希望が出来ました。"わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。"と書いてある御言葉が思い出しました。障害がある子供がいる5人の方の母と共に当会長の牧師の励ましを受けて希望部を開設して運営し始めました。27年前でした。当時障害人に対する認識と社会的な配慮が今と違って障害人の家族の生活が悲惨でした。障害の原因も病院で知らない場合がほとんどで共に議論する人も、助けを受ける団体と機関もなかったです。私は主だけ見上げました。教会から家に帰って来ると賛美をして御言葉を黙想し祈りをしながら過ごしました。神様から答えられる楽しさを知るよう

になったこそ21日40日の期間を決めて題目を変え神様に切に祈りました。昼には笑いながら礼拝を捧げて夜には泣きながら祈った期間が20年が超えました。様々な事で忙しく体と心が疲れて一時期希望部を辞めました。するとある時から礼拝を捧げて心も良くなりました。そんな状況で当会長の牧師の説教を聞く中で初恋を回復すべきだと主の声が聞こえました。迷っている時に愛する希望部の子供達の姿が目に見えかけました。しかし、旦那が職場で名誉退職をして不動産仲介士の試験を準備をしていたので私が代わりに経済活動をしないといけなかったので奉仕が出来ませんでした。療養保護士で障害人の活動を手伝うなど様々な仕事をはじめて5が月ほどたった時、急に下血をしていたが貧血の症状が現れ、これ以上働くことが出来なくなりました。私の力では何もできない事を知り、私に向かった神様の御旨を悟って再び礼拝中心の生活をして希望部の教師で献身しました。そして神様は重い病気を治療してくださった恵みを体験しました。ある日からへの周りがよく痛かったです。ご飯を食べた後は消化が出来なくて消化剤を飲んでも効果がなかったです。ご飯の代わりにお粥を6ヶ月間食べながら過ごしました。胃内視鏡の検査で何も異常が発見しませんでした。お盆の時痛い体で旦那の実家に行ったが下痢と嘔吐を繰り返しました。連休の最後の日に病院の応急室に行ったら腸炎だと言われました。しかし、治らなくて脱臭症状まであって入院と退院を繰り返しました。後は水だけ飲んでも息が苦しかったです。結局、運ばれて大学病院の応急室を行って検査結果は今まで聞いたことない病気でした。への周りに大きいこぶがあつて痛みがあるたびに小腸が流入して命が危ないので手術をしなければならいと言われました。手術時間が少し遅れてその時間に教区に祈りを頼んで切に神様を仰ぎました。祈るときに奇異なことは自分のため祈っている天使のような姿が見えました。すると、全ての恐れがなくなり心が平安になって大胆さで手術室に入ることが出来ました。神様の恵みで手術

がよくできました。起きたすぐ、神様に感謝祈りを捧げました。そして、教区と区域の聖徒にメールで感謝の挨拶をしました。生きて水を飲んで食べ物を食べることに感激して賛美が退院をするやいなや希望部を尋ねました。私がいなくてもきれいに礼拝を捧げている姿を見たらすまなくてありがたかったです。子供達と先生が私のため祈ってくれました。歳は25歳の淑女になったが心と考えは幼稚園の子供のような娘が母が早く治るように運動をさせてあげると私の手をつないで導く時には言葉で表現できないほど感動と喜びを感じました。私が首区域長の職分を担えながら新しい覚悟と希望部を仕えたのも5年目になりました。その間青年になった子供達も教会学校で教師として奉仕しています。希望部で子供達を仕え親たちに相談をしながら私は大きいやりがいと喜びを得ました。主日ごとに教会に来て明るい姿で礼拝し交際しながら幸せる子供達が徐々に安定され行動が変わって行く子供達が本当にきれいで愛らしいです。この子供達が全て"昼、太陽はあなたを撃つことがなく、夜、月もあなたを撃つことがないように神様が守ってください、学校と福祉館で愛を受けるように祈ります。そして、家族と周りの人々がイエス様を信じる祝福の通路になるのを祈ります。私は信仰生活をしながら両家の親がイエス様を信じなくて、家族の中で祈ってくれる人がないのが一番苦しくて心が痛かったです。それで、家族の救いをため祈りました。それで今は実家の母と父と姉は私と共に礼拝を捧げます。集まって聖書の話を互いに祈り合ってくれるから心がいっぱいになります。旦那の家族も早く救われて両家が神様を礼拝し教会を仕え奉仕しながら献身するその日の望みながら祈っています。たとえ環境が大変で経済的に良くないけど主だけで感謝し幸せるこの信仰をくださった神様に感謝します。希望部を仕える教師になるように導いてくださり、娘と希望部の子供達に信仰と愛と希望を与え祝福するようにしてください。ハレルヤ！マラナタ！



【信仰コラム】

恨みと不評を治める秘訣

” また、ある者たちがつぶやいたように、つぶやいてはならない。つぶやいた者は、「死の使」に滅ぼされた... ” (コリント人への第一の手紙 10:10、11)

恨みと不評を治める秘訣を調べてみましょう。聖書は” 油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。 ” として ” 自分の心を治める者は城を攻め取る者にまさる。 ” としました。まず、人が恨んで不評する理由を分析してみます。一、欲求不満によって恨みと不評ができます。二、私物の否定的な面に執着するので恨みと不評ができます。三、理解不足のため恨みと不評ができます。四、神様が手伝ってくださらなかったで自分が苦境に遭ったと考えるから恨みと不評ができます。次は、恨みと不評がもたらす悪い結果について調べてみましょう。第一、恨みと不評は状況をより悪化させます。イスラエル民の 40 年広野生活に対する記録は恨み不評が状況をより悪化させるという事実をこの上なく如実に表しています。第二、恨みと不評は否定的で悲観的な精神状態を痼疾化させて歪んだ人格にさせます。第三、恨みと不評は肉親の健康を害します。第四、恨んで不評すると良い隣人を失います。第五、恨みと不評は神様を憎しくします。第六、恨み

と不評は神様を激怒させます。神様を激怒させて福を受けるのを期待することができません。最後に、恨みと不評を治める方法に関して調べてみます。一、不満を不平の種に扱わずに挑戦と発展の機会になるようにしてください。万が一、人々が馬や馬車に満足したなら車や汽車、そして飛行機は作られなかったでしょう。ある種類のある改良も現在にあることに対する不満を創造的な活動の動機に扱った人々によって叶えられたのです。二、現在より難しかった時の経験を想起してください。三、自分より難しい状態にいる人々を考えてください。四、問題になる私物に対して神様の御言葉に基づき肯定的な意味を付与してください。カナン之地を探知した 12 人の回し者の中で 10 人とヨシュアとカレブは全然異なる報告をしました。否定的な意味付与をして恨みと不評した者達は広野で滅びました。其の反面、神様の御言葉に基づいて肯定的な意味を付与したヨシュアとカレブはカナンを占領しました。彼らが問題に対して意味を付与した通りになりました。五、神様の助けを信じて事前に感謝してください。感謝には後続感謝と先行感謝があります。後続感謝は受けた恵みに対して感謝を捧げることであり、先行感謝は信仰で期待して事前に感謝を捧げることであります。イエス様が死んで 4 日も過ぎたラザロを生かせる時に目をあげて仰がれながら ” 父よ、わたしの願いをお聞き下さったことを感謝します。 ” とお祈りなさいました。ラザロが再び生きることに対する先行的な感謝でした。皆さんが神様の助けを信じ

る信仰で無いものを有るもののように呼びながら感謝するとしたら恨みと不評が心に入らないでしょう。そして神様が皆さんの先行感謝を恥ずかしくないよう行われてくださいます。六、何よりも救われたことによって常に感謝してください。感心する心を持つと主の事をする時に恨みと不評なしに楽しく献身するようになります。イスラエルの民がエジプトに居住する時の惨憺な奴隷生活から神様の能力で救われた恵みを考えてみるとしたら現実の困難のため恨んで不評することはいかに輕挙妄動な行動であるか知りません。それだけではなく、現在に行く道が陰しくて困難があっても彼らは神様が許された乳と蜜が流れるカナン之地に向いて行っているのです。だから途中に経験する困難を恨んで不評する理由が全くありません。私達は罪惡に縛られて生活し、サタンの僕として生活した後にはサタンと共に永遠に燃える火の池に投げられる運命から免れない者でした。そのような私達が神様の大きい恵みを被って救われた民になり天国に向いて進むようになりました。従って、皆さんは救われた感激を持って生活することで心に常に感謝が満ちて恨みと不評が入る余地がないようにしてください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

寝床を担いてきた人たちの模範



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

イエス当時パレスチナは三つの地域に区分しました。ユダヤとサマリヤとガリラヤです。サマリヤ地域が中央を占め、その下にはユダヤ地域であり、その上部はガリラヤ地域です。今日の本文に出てくるカペナウムはガリラヤ地域の漁村でガリラヤの海の北の海岸に位置しています。ここには、税関があり、ローマの百卒長が駐留していました。この会堂の付近には、イエスの弟子ペテロの家がありました。イエスはカペナウムを活動の拠点とされました。イエス巡回の旅を終えてカペナウムに帰って来てある家に入ってそのうわさが村に広がりました。人々が集まって来て、イエスのいる家の庭まで立錫の余地がなくなりました。その中風の人

の人が横になった寝床を担い来る人が気づいた。彼らイエスのいる家庭に到着したときは、すでに人々が家の内外をいっぱい満たした後でした。彼らはイエスの前に行こうとあちこちで努力したが、無駄がありませんでした。ところが、驚くべきことに、彼らは見せた反応です。彼らは急いで来られなかったことを後悔したり、人々の不人情のこぼさなりました。あきらめて帰ってしまうもしない。互いに相談して、奇想天外な行動を敢行し始めました。中風の人

の人が横になった寝床を屋根の上に運びました。当時の庶民の家は、通常、土、レンガで建てられ、屋根は一種の平らな屋上は外の階段を介して上がるようにしています。屋根の上に上がった彼らはイエスが

がいるところを見積もり、その屋根を穴を開けるのを始めました。いよいよ屋根のあなが開けました。彼らは中風の人

の人が横になった寝床の四隅に ひもでしっかりと まとめて下につり下ろし始めました。彼らは補助をよく合わせて寝床を出しました。いよいよ寝床がつり下ろしました。「この人よ、いくら病気が重い状態でもいやしが熱望しても、これまで失礼な行動をするのか。」イエスは、このような非難の程度はするだろうと人々は考えたのです。ところが、イエスは、彼らが予期しないことを言われました。「あなたの罪が赦しを受けた。」イエスについて非常に敵対的なパリサイ人や律法学者たちがこの言葉を聞いて神を冒瀆する言葉と判断しました。イエスが彼らの考えを知って言われました。「イエスは、彼らが内心このように論じているのを、自分の心ですぐ見ぬいて、「なぜ、あなたがたは心の中でそんなことを論じているのか。中風の人に、あなたの罪はゆるされた、と言うのと、起きよ、床を取りあげて歩け、と言うのと、どちらがたやすいか。しかし、人の子は地上で罪をゆるす権威をもっていることが、あなたがたにわかるために」と彼らに言い、中風の者にむかって、「あなたに命じる。起きよ、床を取りあげて家に帰れ」と言われた。すると彼は起きあがり、すぐに床を取りあげて、みんなの前を出て行ったので、一同は大いに驚き、神をあがめて、「こんな事は、まだ一度も見たことがない」と言った。ここに登場する中風の人と彼を横になった寝床の担いきた人々は素晴らしい模範を残しました。それらから、私たちが見習うべき点を説明します。

第一は、彼らの信仰です。

彼ら寝床に横たわる中風の人を担いで、イエスのところにきたのは、イエスのうわさを聞いたからです。様々な病氣を持つ人々が、イエスのところに行って、いやされた話を聞きました。さらにハンセン病患者に手をさわっていやされた話も聞きました。感謝の涙を流さずに、イエスの名前を言うことができない人が多い話を聞きました。「イエスが彼らの信仰を見だ。」と記録されたのを見ると、彼らはただ中風の人

の家の使用人として寝床を背負ってきた者たちがないことが明らかです。彼らはイエスが言われることを聞いて、信仰を持つようになったのです。「信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである。」（ローマ人への手紙、10:17）としました。中風の人とその病人が横たわる寝床を担いてきた人たちは、イエスの知識を得て、その知識による信仰を持つようになった者たちでした。信仰を持つ必要に応じて、聖書に記録された神の言葉をお読みください。暗唱し、黙想してください、説教を通して聞きなさい。

第二は、彼らの行動です。

彼らは偉大な治療者であるイエスのところに行きました。彼らは障害のせいにせず、どのようにして、障害を克服するのかを考えました。生き生きした信仰は、障害を克服する行動をするようにします。ルカによる福音書、5章19節に記録されることを「群衆のためにどうしても運び入れる方法がなかったので、屋根にのぼり、瓦をはいで、病人を床ごと群衆のまん中につりおろして、イエスの前においた。」としました。障害は、彼らの信仰を引き立てることがしました。彼らはイエスの前に行くだけで、必ず治療という確信があったため、他人の家の屋根の瓦をはいで病人を床ごと群衆のまん中につりおろしました。家主が要求する被害補償をする覚悟をしました。イエスが怒るのではないで家の外に出ないし、彼らの無礼を愛して容認し中風の人をいやすと確信しました。彼らの心のこれらの信仰が行動を通じて気づいた。その場に集まった人々は、イエスのように寝床を担いてきた人々の心の中をのぞかずもの人々は彼らの行動を介して表示された信仰を見ることができました。イエスは彼らの心の中にある信仰と行動でしめされた信仰の両方を見ました。ヤコブ使徒は言った、「あなたが知っているとおり、彼においては、信仰が行いと共に働き、その行いによって信仰が全うされ」（ヤコブの手紙、2:22）としました。行動が従わない信仰を指して、死んだ信仰とも呼ばれました。生きる信仰は犠牲をいとわない。リスク回避していません。

第三は、彼らの心を合わせと協同します。

中風の人

の人がイエスの前に行くには、誰かの助けが必要です。一り、二人では中風の人

の人が横になった寝床を運ぶのが難しいです。寝床は、4人が運ぶのが簡単に持ち運びすることができます。四人が寝床を担い、イエスがおられる家に到着してみると、まずきた人々によって入り込むすき間がありませんでした。もし、その四人の中に一人が「とてもいけないだと戻りましょう」とこたわりた場合は戻ったものです。

ところが、4人の一人が言いました。「寝床を屋根の上に上げて屋根を穴を突き抜けてイエスの前につりおろしましょう。」ここで意見の一致を見るということは決して容易なことではないのに、彼らは誰も反対意見を言わずに一体となって動いた。屋根の穴を開け、次に寝床の四隅を一つロープをおのおのずつつかんで呼吸を合わせて行う必要があります。ややもするとバランスをうしなう場合中風の人

の人が墜落して大変なことになります。中風の人

の人も四人に自分を完全に任せました。彼らの信仰が一致し寝床を担い来ること、屋根の上に上げること、屋根を穴をあける、根台をつり下ろすことに一致しました。驚くべき力を合わせと協同します。問題が発生した場合、私たちは集まって祈る必要があります。家庭で地域で祈りの日に心を合わせて協力します。教会的な一大事や国家的な一大事に直面したとき、聖徒たちが集まって祈ってください。初代教会が迫害を受けるとき、使徒たちと聖徒たちが集まって祈りました。使徒行伝、4章に、その場面がこのように記録されています。「主よ、いま、彼らの脅迫に目をとめ、僕たちに、思い切って大胆に御言葉を語らせて下さい。そしてみ手を伸ばしていやしをなし、聖なる僕イエスの名によって、しるしと奇跡とを行わせて下さい」。彼らが祈り終わると、その集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされて、大胆に神の言を語り出した」（行4:29~31）信仰を持った聖徒たちが集まって祈りと信仰が大きく向上します。そして、神の力の手を伸ばしていただきます。サムエルはイスラエルを治めるときペリシテの侵略に直面した。サムエルが民をミツパに集まるようにして、神に祈りました。すると神の大きな雷でペリシテ人を目まぐるしくて、イスラエルに敗北すようにしました。ヨシャパテ王がユダを治めるとき連合軍の侵攻を受けてい国の運命が風前の灯のようになりました。ヨシャパテ王と民がエルサレムに集まって神に叫んで祈りました。すると神は連合軍と連合軍が戦うように摂理していただき、イスラエルの民は、戦わず、戦利品を獲得することになりました。

集まって心を合わせて叫ぶ必要があります。聖徒たちが協働すれば、神様が助けてくれます。イエスは言うのを「また、よく言うておく。もしあなたがたのうちのふたりが、どんな願い事についても地上で心を合わせるなら、天にいますわたしの父はそれをかなえて下さるであろう。」（マタイによる福音書、18:19）しました。イエスはひとつの心とひとつの願いを協同して働いて祈る聖徒たちのために力の手を伸ばして助けてくださいます。この時間搜して見た信仰と行いと心を合わせと協働の模範が皆さんのものになるのを願います。